女川町 支援活動レポート

2013.05.25

（第３回東日本大震災チャリティーコンサート”がんばっぺ東北！”）

頑張ろう日本！　頑張ろう東北！

平成２５年６月６日（木）

東北被災地応援団　白金支部

女川町 支援活動レポート

このたびの東日本大震災により亡くなられた方のご冥福を心からお祈り申し上げるとともに、
被災された皆様に対し心からお見舞い申し上げます。　被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

1. はじめに

あの未曽有の大災害をもたらした東日本大震災から2年と3ヶ月。被災地報道の激減とともに、人々の被災地への関心は薄れ続けています。たまに見聞きする報道では、ハード面、物理的な復興が進んでいることを印象付けるようなものがほとんどです。一方、復興庁がこの5月に発表した、2013年3月までに報告された「震災関連死」の数は2688人。同庁が初めて「震災関連死」を定義付け、震災から1年経った2012年3月度末までのまとめとして、同年5月に発表した数は、1632人。昨年からさらに1000人の方々が亡くなられています。

復興庁は、「震災関連死」を東日本団震災後の影響による肉体・精神的疲労が原因で、亡くなられたり、自ら命を絶たれる方と定義し、「助かった、助けられた命」の中で、お亡くなりになる方がいらっしゃることを真摯に受け止め、国としても対応策を検討する必要があると発表していますが、その数は増える一方です。

東北被災地応援団 白金支部として、女川町の仮設住宅を訪問させていただいている我々の耳にも、「もう被災地は大丈夫なのでは？」「支援はまだ必要なのかな？」という声がたびたび聞こえてきます。「被災地の”今”を知る私達が、東京で発信し続けなくては」という思いは、活動を通して常に持ち続けておりました。

そして今年も昨年に続き、第3回目となります、「東日本大震災チャリティーコンサート”がんばっぺ東北！”」を開催させていただきました。今回のテーマを「今、我々に出来ること！」とし、これまで同様、コンサートという形式をとることによって、ご来場頂く方々に楽しみながらも、改めて震災に向き合い、被災地の今を知っていただき、今、何が必要とされているのか、一緒に考えて頂く場にしたいと考えました。

今回も本当にたくさんの皆様に支えていただいての開催となりました。感謝の気持ちをこめて、ここにご報告させていただきます。

2. 活動報告

（1）概要

◆タイトル　第3回 東日本大震災チャリティーコンサート　“がんばっぺ東北！”　今、我々に出来ること！

◆日時　2013年5月25日（土）　9:30～18:30

◆会場　高輪区民センター　区民ホール
住所：港区高輪1-16-25　高輪コミュニティーぷらざ内

（2）開催目的

東日本大震災より2年が経ちましたが、東京では震災前と変わらぬ普通の生活に戻り、メディアでの報道も激減し、東北の被災地域への関心は著明に低下している。イベントを通し、改めて震災というものに向き合い、今の被災地の現状を多くの方々に伝え、忘れず、想い続ける様、賦活する事を目的とする。

（3）企画内容/ホール

①チャリティーコンサートの形態から、集客の見込める各種ジャンルの方に出演頂く。
②女川町出身者、及び関係者、被災地支援をされてる方々に講演頂く。

（4）企画内容/回廊

①東日本大震災の報道写真パネル展示。（日本経済新聞社）
②女川町物産の販売。
③女川町マザーズ produced by REALeYE（洋裁小物の配布・女川町仮設住宅 各所より）
④復興支援絵本「ツブさんのおさんぽ」の販売。
⑤大抽選会。
⑥女川町紹介。
⑦応援団グッズの販売。
⑧東北被災地応援団 白金支部の活動報告。
⑨石巻ママサポーターズが作成した「女川×小笠原　コラボ布草履」の販売。
⑩女川佐々木写真館　写文集の販売。

カラフルに仕上がったポスター

(5)活動レポート

2012年10月

幹事会にて、第3回目となる「東日本大震災チャリティーコンサート 」開催について話し合いが行われました。開催時期を2013年5月末とし、いつまでにどんな準備が必要となるのか、前回の反省点から次回に活かせる課題とは何なのか。コンサート枠組み作りに着手です。

2012年11月～12月

実行委員長は昨年同様、副代表の川端が引き受け、会場、開催主旨、集客方法などについて、幹事の間で話し合いが進められていました。このイベントを通じ、誰に向けて、何を発信したいのか？被災地への関心を再度持って頂く為の工夫はどうしたらいいのか？
また、前回の来場アンケート結果を分析、若い世代の取り込みができていない点、効果的な集客方法などについても検証しました。

会場は同じく「高輪区民ホール」、日程は2013年5月25日とし、リハーサル等のスケジューリングを行いました。区の施設の為、利用は3ヶ月前の抽選で決定します。予備日程なども視野に入れながら、参加いただける団体、パフォーマーの方に打診を始めました。

2013年1月～3月

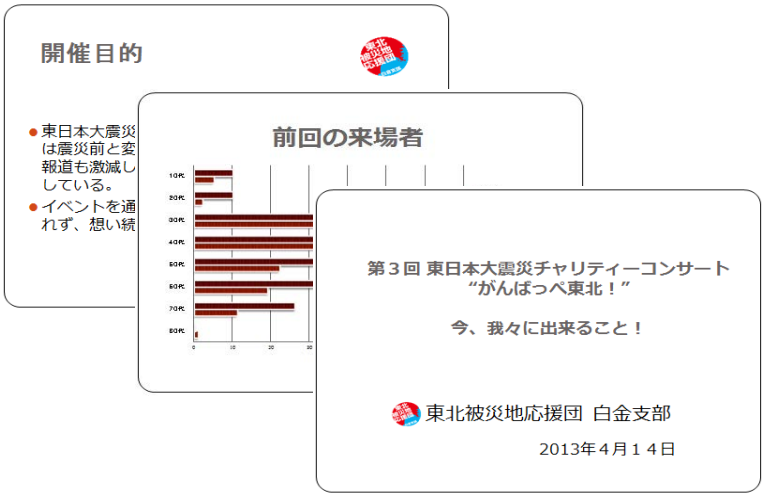
2月にホールの利用が予定通りの日程で確定することを軸に、準備が進められました。女川町を前面にだした回廊の企画、動員する観客の方々にゆっくりとステージを楽しんでいただけるよう、初めて休み時間をはさんだプログラムを作成、近づく5月に向けて一つ一つ決めていきます。そして、2月1日、ホール利用日が確定。パフォーマー、講演の出演者の方々も順次確定し、スタッフ募集も開始です。

2013年4月

開催まであと2ヶ月となりました。使用施設への挨拶、プログラム最終調整、ポスター、フライヤーデザインの発注など、様々な準備が一気に進められ、回廊のブース作りも具体的になってきました。ここからは、たくさんの方々の協力が必要です。参加スタッフ全員を集めての全体ミーティングが行われました。

4月14日　スタッフミーティング

今回はじめての参加の方も多数いらっしゃいましたので、昨年の写真などもお見せしながら、企画の主旨、内容、などを説明の後、あらかじめ決めさせていただいたスタッフ配置に従い、グループ分けをし、それぞれが当日までに必要な準備などを確認します。
集まったスタッフが同じ方向を向いて準備を進められるよう、イベントの主旨から幹事を中心に説明させていただきました。



プレゼンテーションの形で企画説明を行いました。

フライヤーでスタッフも友人知人に告知。

2013年5月

開催まで1ヶ月をきりました。各担当グループごとに打ち合せを重ね、準備を進めます。一方で、告知活動にも力を注ぎます。
昨年とりこめなかった若年層の集客を考え、港区の教育委員会にも話を通し、近隣の幼稚園、小中学校に出来上がったポスター、フライヤーを配布。また、周辺の大学にも声がけ、人が集まりそうな図書館、区の施設や、開催ホール周辺店舗などにも、ポスターの貼り出しをお願いさせていただきました。ご出演、講演の快諾をいただいた方々、女川町からいらして下さる方々、そして、今も支援を必要とされているたくさんの被災された方々の為にも、一人でも多くの方にお越しいただきたいという思いで、メンバー一同、最後まで告知活動に注力です。

2013年5月18日　リハーサル兼打ち合せ（区民ホールにて）

この日集まった回廊メンバーは、近隣住宅へのポスティング、当日のブース作りの最終確認、ステージチームは、音響機材の確認、当日の流れにそっての舞台転換の練習です。ピアノや、スクリーンの設置収納を繰り返し練習しました。

2013年5月20日　出演者「いとしのエリーズ」ゲネプロ

私共会の代表、工藤の同級生というご縁から、今回のイベントの出演をいち早く快諾いただき、演奏機材、音響、告知など、全面協力をいただいた、サザンオールスターズのトリビュートバンドの「いとしのエリーズ」さんのゲネプロにお邪魔しました。これだけ大きなバンドを迎えることは初めてだった為、リハーサルの合間に、当日の機材設置などを確認させていただきました。深夜まで繰り返されるリハーサルを見学しながら、ほかのご出演の方も含め、この会の為に本当にたくさんの方々が時間をさいて、ご協力いただいていることを改めて感じ、あと数日間、とにかく、やれることを全てやろうと、改めて心に誓います。

2013年5月24日　リハーサル、前日準備

本番を翌日に控え、出演者の方のリハーサルが入り、当日の舞台設定の確認を行いました。合間を見て、ステージ上部に、イベントタイトルの看板を掲げ、その下に女川町から届いた大きな大漁旗を掲げ、ステージ上に遠く離れた女川町からの息吹が吹き込まれました。
回廊では、お客様を迎える準備が進みます。皆で意見を出し合い、試行錯誤しながらギリギリまで調整して用意されたポップなどをどうしたら効果的に来場いただいた方に見ていただけるか、女川町を前面に出せるのか、工夫しながら遅くまで飾り付けを行いました。

2013年5月25日　「第三回東日本大震災チャリティーコンサート”がんばっぺ東北！” 今、我々に出来ること！」

当日を迎えました。朝の集合時間前には、ホール前に今回のイベントの赤いオフィシャルTシャツを着たスタッフが早々と集まり、そして、女川町からお越しいただいたゲストの方々、取材を兼ねて飛び入りでMCのお手伝いもしてくださることになった「女川さいがいFM」のスタッフの方々も到着です。「女川さいがいFM」とは、震災で流出した町の防災無線にかわる情報伝達手段として開局されたラジオ局です。
先日NHKのドラマ「ラジオ」の舞台ともなっており、ドラマの宣伝パネルもお持ちいただきました。
9時に会場に入り、来場者を迎え入れるまで30分しかありません、一日の注意事項などが伝えられ、集合写真を撮ったあとは各持ち場で最後の準備が進められました。

全員集まったところで集合写真。

女川観光協会会長より楽屋にお花が届きました！

9:30

開場。最初の来場者をお迎えします。ここ数ヶ月、集客、準備、出来ること全てにスタッフ一同手を尽くしてまいりました。お客様を迎える気持ちもひとしおです。そして、回廊に入り始めた来場者をホールへ誘導、ステージもいよいよ幕開けです。

◆ステージレポート　　三上　加寿子

ホール内への誘導が始まると、スクリーンに震災を振り返る為の映像を流した。スクリーンに映される3･11の日の映像。
この大災害からたったの2年と3ヶ月。まだ忘れるには早すぎる。これから始まる1日でどれだけの方々にお伝えすることが出来るだろうか。
スタッフ一同、緊張の面持ちで一日が始まります。

午前の部

司会の二人が壇上に立ち、開会の言葉を述べた後、私共の活動の拠点としてお世話になっている「尚礼会　橋本 翔二」さんによるご挨拶、そして来賓の「港区議会議長　菅野 弘一」様からもご挨拶を賜った後、司会の言葉を合図に、客席の皆様にもご起立いただき、スタッフ一同も手を止め、震災で亡くなられた方々へ黙祷をささげました。

さぁ、プログラムの始まりです。三度目のご出演となりました「プアマエオレ フラスタジオ 」さんが、客席から華やかに登場。土地、自然現象に対しての信仰、祈りの表現がフラダンスです。今日のこの日は、震災に対しての祈りをささげいただけたのではないでしょうか。

続いては昨年に続いてのご出演の「松鶴家 ぽん」さんの登場です。今も被災地の保育園、幼稚園などにも度々足を運び、笑顔を届けていらっしゃいます。被災地の子供達も、今回のステージを見つめる子供達と同じ様なキラキラした目をして、見ていたに違いありません。

1つ目の講演、「女川町復興サポート REALeYE　高橋 圭介・一枝」さんです。舞台袖に待機されている間は、とても緊張した面持ちです。自らも被災されながらも継続した支援を継続されている活動、震災から日がたってきたこその苦しい心の内をお話いただきました。

午前中最後のプログラムは、地元の小学校「三光小学校児童合唱団」の皆様です。合唱団を率いる清水先生は第一回から続いてのご出です。総勢34名の子供達の清らかな歌声が被災地に届きますように。そんな気持ちで舞台袖から見守ります。

菅野 港区議長よりご挨拶

いつもお世話になっている
尚礼会町会長の橋本さん

祈りの踊りがささげられました
「プアマエオレ　フラスタジオ」の皆さん

「松鶴家ぽん」さんのジャグリングは一味違います！

一所懸命大きな声で歌ってくれた「三光小児童合唱団」の皆さん

午後の部

今回より、午前、午後、夕方のプログラムに分け、それぞれの間に休み時間を設けました。来場いただく方に、ゆっくり回廊を見て頂く時間や、お昼ご飯などの時間をとっていただきたいと考えたからです。舞台転換の合間には、司会の近藤と青木が、客席の皆様に女川町により興味を持っていただきたい、そんな気持ちで女川町の観光地や、方言などをクイズ形式を交えてお伝えします。

午後の部は、お忙しいところ前回同様駆けつけてくださいました「港区長　武井 雅昭」様からのご挨拶から始まりました。

つづいて、「東北被災地応援団 白金支部　代表　工藤 史大」より挨拶をさせていただきました。皆様のご協力と共に今回もコンサートを実現させていただいたお礼と共に、これからも継続した支援の為のご理解、ご協力を呼びかけます。

ここからは、講演とライブのプログラムが始まります。始めは「被災地支援団体aoSORAnt　代表　青田 泰明」さんの講演です。飲食業界の方々で活動されており、被災地に美味しいものと笑顔を届ける活動を続けていらっしゃいます。被災地の方々のコミュニケーションサポートの重要性についてお話いただきました。

そして被災地を訪問してのライブ、CDの売上の一部を義援金にと、積極的に支援の活動をされていらっしゃる「CHECK DoLL」さん。男女ペアのやさしいハーモニーがホールに響きます。そして「ちょこっとダンディ」さんのMCをはさんで「オトザイ サトコ」さんのライブです。力強い歌声、被災地への祈りをささげるようなメッセージ性のある歌を披露してくださいました。

ご挨拶いただいた武井区長

応援団代表の工藤

aoSORAnt　代表の青田さんは、この翌日も被災地へ

「CHECK DoLL」さんはストリート出身だそうです。

「オトザイ サトコ」さんの歌声は人を魅了します。

アンバランスな感じが絶妙
「ちょこっとダンディ」さん

そして「なおやマン」さんによる「かおりのパーティー」。昨年の11月は私共の女川町訪問の際に、ご一緒させていただき、たくさんの子供達の笑顔を引き出してくださった参加型ワークショップは、この大きなホールでも観客の方々を楽しませてくださいました。

午後の部の最後は「災害・環境支援団体 Nine　代表　緑川 雅彦」さんによる講演です。精力的に被災地に足を運ばれていらっしゃり、行方不明の方々の捜索活動を続けていらっしゃいます。進む海岸の再建の前に少しでも多くの方を見つけたいという強い思いを抱いての活動には本当に頭の下がる思いで、客席の皆様もお話をうかがっていらしたのではないでしょうか。

衣装も楽しい「なおやマン」さん

Nineの緑川さんは活動のときの格好で登壇です。

緊張もほぐれてきた司会者

夕方の部

午前の部の始まりは女川町からのゲスト、「蒲鉾本舗 髙政　髙橋 正樹」さんの講演です。髙橋さんたってのご希望で、取材にいらしていた「女川さいがいFM」さんから「大平 直人」くんと「阿部 真奈」さんの二人がMCとしてはいり、「女川さいがいFM」の番組「おながわ☆なう」の番外編としてのスタートとなりました。「女川加工研」の「マルキチ阿部商店　阿部 淳」さん、「海鮮問屋青木や　青木 久幸」さんも交わってのトーク、番組の雰囲気を客席の皆様も感じられたのではないでしょうか。スクリーンには、髙橋さんが震災当初に撮りためられた写真や映像を映し、震災から2年経った今だから話せるという心の一部をお話くださいました。

そして、最後は、サザンオールスターズのトリビュートバンド「いとしのエリーズ」のライブです。サザンをこよなく愛するバンドのボーカル、兼近さんは、ご自分もどんな形でも力になれたら、と、以前から考えていたそうです。そして今回のステージで東北の被災地の方々へ想いを届けたいと、熱く歌ってくださいました。そんな想いに応えるように、最後は会場全体が一つになり、アンコールの曲では全員総立ちの盛り上がりです。兼近さんの想いが観客の方々に伝わり、そしてそのパワーは遠く離れた被災地にも届いたのではないでしょうか。

最後に「実行委員長　川端 陽子」より、ご来場いただきました方々、ご出演のご協力をいただきました方々にお礼を申し上げ、盛会のうちに締めくくりとなりました。

大平くんと阿部さんは現在は東京の大学生。

おながわ！なう！の掛け声ではじまります。

蒲鉾本舗 髙政　高橋さん

バックダンサーもかわいい「いとしのエリーズ」さん

最後は総立ちでした！

実行委員長　川端

◆回廊レポート　　後藤　奈津子

来場された方が最初に出会う回廊スペース。来ていただけた方と女川をつなぐ大事な役割を担っているという緊張感を感じていた。

それぞれのブースごとに、何度も連絡を取り合い、事前準備を進めていく。メールでのやりとり、仕事帰りにミーティング。女川に何度も足を運んでいるメンバーは、初めて参加するメンバーに女川のことを紹介しながら、どうしたら多くの方に思いを伝えられるかを相談していった。

受付は、この会の顔である。ここでの第一印象が、来場者の気持ちを動かす。緊張する気持ちを抑えつつ、笑顔で対応していった。メンバー手作りのプログラムや女川観光協会さんからいただいたパンフレットをお渡しし、来場してくださったことへの感謝の気持ちを伝えていく。開場と同時にご来場いただき、笑顔でスタート。楽しい1日が始まった。

分かりやすいように建物の入り口にも！

報道写真が語るものはやはり大きい。

初回から協力してくださっている「日本経済新聞社」さんからは、今年度も「東日本大震災　報道写真」をお借りした。事前にメンバーが会社に伺い、たくさんの写真の中から、より伝えたいと思うものを選んできた。伝えたい思いがたくさんある。届けたい思いがある。少しでも皆さんに届けたい、そんな思いで選んだパネルを、前日丁寧に展示していった。当日は多くの方が足を止め、じっとパネルを見つめていた。東京にいながら、その瞬間だけはみんな東北に思いを馳せることができた、そう感じる瞬間だった。

女川町物産販売として、女川町から「蒲鉾本舗　髙政」さんより高橋様が、「マルキチ阿部商店」さんより阿部様が、応援団メンバーも大好きな蒲鉾や昆布巻きなど、女川の美味しいものをたくさん持ってきてくださった。会場に運んだ冷蔵庫いっぱいに入っていた蒲鉾も、あっというま間に売れていく。昨年より多めに持って来られたにもかかわらず完売。美味しい物は人を幸せにする。女川ファンが増えそうだ。

隣では、女川のお取り寄せ商品の紹介をしていた。「株式会社　海の民」さんからは、代表の青木様がきてくださり、美味しい魚の種類やさばき方、いろいろな食べ方などを紹介してくださった。また、女川町観光協会さんでは、「がんばる女川セット」の通販も始めている。美味しそうな実物を見ながらパンフレットを手に取り、興味津々に話を聞いてくださる方がたくさんいた。

ご質問には丁寧にお答えさせていただきました。

蒲鉾も昆布巻きも物産品は大人気！

「女川マザーズ」の小物も人気です。

女川町紹介ブースでは、応援団メンバーの手描きの地図にみんな興味津々。また、写真をふんだんに使った資料に目をやり、「女川に行ったことがある」「あの辺はどうなったのか…」と、話しかけて来られる方もいらっしゃった。被災した当時の様子や、現在の女川町の様子を感じ取っていただけたのではないかと思う。「行くにはどうしたらいいかしら」と、聞いてくださる方もいた。私たちも行く度に好きになっていく女川町。多くの方に足を運んでもらえるとうれしい。

応援団紹介ブースでは、今までの活動報告と共に、支援金箱をおいて支援金のお願いもした。 多くの方が、次々に支援してくださる。大切なお金を預かった責任を感じながら、女川の方の為に出来ることを続けて行かなければ…と、気持ちを新たにした。また、女川町の「女川アートギルドカンパニー」さんとコラボレーションして作ったTシャツも、興味をもっていただけたようだ。Tシャツが出来るまでの行程をイラストで紹介、女川町と関わっていることを感じていただいた。胸の文字の「We love ONAGAWA」が多くの方に伝わることを願いたい。

女川町マザーズのブースでは、仮設住宅のお母さん方が作成したハンドメイドの洋裁小物を無料で配布した。これは、全国からの支援に対する感謝の気持ちとして、女川のお母さん方からお預かりしたものである。女川町からいらしたREALeYEの高橋様も、一緒に説明してくださり、来場者に手渡していく。お母さん方への感謝の気持ちを伝える為に、こちらにも募金箱を設置した。こちらで集まった募金は、女川町のお母さん方に集会場でのお茶やお菓子代として、お渡しする予定だ。温かい気持ちが行ったり来たり…。笑顔があふれていた。

今回は応援団だけでなく、東北に思いを持ち続ける方達にもご協力いただいた。1冊購入するともう1冊が石巻の子どもたちへプレゼントされる絵本「ツブさんのおさんぽ」や、女川出身のプロカメラマン鈴木麻弓さんの写文集「女川　佐々木写真館」も販売された。
また、石巻ママサポーターズが作成した、Tシャツから作られた布草履も完売した。多くの方がいろいろな形でサポートしていることを感じることができた。

また、前回よりもさらに多くの方に来て頂く為に…と、「モランボン 株式会社」さんと「キッコーマン食品 株式会社」さんにご協力いただき、抽選会を計画した。1～3等には女川の美味しい蒲鉾や昆布巻きが、参加賞として「サムゲタン ハーフ（モランボン）」や、「キムチ鍋スープ（キッコーマン）」、「具麺ごま肉味噌（キッコーマン）」が当たるのだ。抽選時間にはたくさんの方が集まってくださった。ハズレなしにびっくりしたり、喜んだり。来場者の方の笑顔がうれしかった。

「ツブさんのおさんぽ」も「女川　佐々木写真館」の写文集もたくさん購入いただけました。

最後はスタッフ総出でお見送りです。

そして、最後のステージを飾る「いとしのエリーズ」さんは、活動の支援になれば…と、コンサートグッズとしてうちわを作成してくださった。熱狂的なファンもいる「いとしのエリーズ」さん。多くの方がうちわを手に取り、支援金を入れてくださった。活動を理解し、ご協力いただけたことに、感謝の気持ちでいっぱいである。

多くの方が、ホールでのコンサートや講演を楽しむだけでなく、回廊をゆっくり歩き、活動を理解しようとしてくださったことが嬉しかった。今回のコンサートが、東京にいながらも東北を想い、来場者、出演者、そしてスタッフが、出来ることを考えていくきっかけになると嬉しい。

以上を持ちまして、この度の活動の報告とさせていただきます。

3. 活動を終えて　　実行委員長　川端　陽子

第3回目となる、がんばっぺ東北！チャリティーコンサートを行うことが決まり、本イベントの主旨をご理解頂き、80名を超えるたくさんの方々にご出演いただきました。第1回目より協力下さっている団体の方、今回の出演にあたり、出来る限りの協力をと、「がんばっぺ東北！」限定グッズを制作、配布、集客を一緒に考えてくださった団体の方もございました。

応援団の東京で行っているイベントの中で、一番大係りとなる為、協力して頂ける多くのスタッフが必要となります。今まで参加されていない方も、快く引き受けて下さり、スタッフも総勢60名となりました。

また、今回も女川町から多くの方がご参加くださり、まだまだ心の傷が癒えない中、今だから話せること、被災地の現状などを伝えてくださり、来場頂いた方々に、日常生活の中、忘れかけていたことを想い、考えて頂くことが出来たのではないかと思います。

そして、述べ650名を超える方々にご来場いただきました。このチャリティーコンサートを通じ、東北への寄り添う想いを、ご来場者の方々、ご出演下さった方々、スタッフと、ご一緒出来ましたこと、また私達も改めて考える場となったことを、感謝申し上げます。

一人では出来ないこと、また今回携わって頂いた方、誰一人が欠けても成し得なかったことと思います。本当にありがとうございました。

また、ご賛同いただきご協力くださいました関係各位に厚く御礼申し上げます。これからも、微力ながら、自分達に出来る「寄り添う支援」を継続的に行って参りたいと思っております。これからもご支援、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

4. 今後の活動

◆復興支援バスツアー in 女川町

【日程】　6月15日（土）～6月16日（日）

東北被災地応援団 白金支部として初めての試み、復興支援バスツアーです。語り部さんの案内で町内を巡り、女川原発PR館を含めた各所を訪れ、震災を振り返り、また、女川町の美味しい食べ物を満喫しながらのツアーを組ませていただきました。

こちらも終了次第、ご報告させていただきます。

◆女川町7月支援活動

【日程】　7月6日（土）朝 ～ 7月7日（日）夕方

【活動内容】

清水地区仮設住宅及び石浜地区在宅にて、バーベキュー大会、落語の会、「FANCEL」さんによるハンドマッサージ、他

◆四ノ橋祭り

【日程】　8月3日（土） ～ 8月4日（日）

【活動内容】

港区白金商店街一帯で開催される、四ノ橋祭りに出店です。女川町で水揚げされた美味しい秋刀魚を焼いて、お待ちしております！

ビールと共にどうぞ！「蒲鉾本舗 髙政」さんの蒲鉾も購入できます。

◆麻布十番納涼祭り

【日程】　8月24日（土）～ 8月25日（日）

【活動内容】

毎年50万人もの人出で賑わう、麻布十番納涼祭りの地方物産展エリアに女川町のブースを出店させて頂くことになりました。

脂の乗ってきた女川町の秋刀魚を炭火で美味しく焼いて、女川町PRをさせていただきます。皆様のお越しをお待ちしております。

こちらでも「蒲鉾本舗 髙政」さんの蒲鉾の販売もさせていただきます！

5. 補足事項

（1）参加者（敬称略/順不同）

川端　陽子	相原　朋子	小林　歩	府川　めぐみ
長瀬　冬輝	渡辺　淳子	平林　真百合	後藤　聡志
加藤　準一	成田　薫	東福寺　緑	浅野　礼博
若本　智子	竹下 菜々	古山　美有樹	近藤　尚之
池上　珠子	長内　悟	中山　牧子	青木　千恵
勝村　淳	大井　太	鹿内　美穂	三上　加寿子
大日方　忍	後藤　奈津子	安武　芳樹	伊藤　貴志
島田　東沙	平林　春樹	塚本　達	片桐　稔
小林　伸行	木津　務	田中　郁子	石川　俊子
増田　健夫	松本　志津香	川端　守雄	石川　篤史
山本　彩子	藤原　朗	松尾　輝明	石川　重美
岸　英明	藤川　芳恵	蜜口　真人	相原　幸恵
山本　彩子	有川　美紀子	小澤　徹	安部　由美
板倉　卓	末石　義史	斉藤　秀朋	ステファン　ヤンク
小原　真理	山中　秀樹	山本　崇	藤井　麻由
安部　由美	小澤　雅志	橋本 翔二	工藤　史大

（2）講 演（敬称略/順不同）

高橋　圭介・一枝（女川町復興サポート REALeYE）　緑川　雅彦（災害・環境支援団体 Nine）
青田　泰明（災害支援団体 aoSORAnt）　高橋　正樹（女川町 蒲鉾本舗髙政）

（3）出 演（敬称略/順不同）

プアマエオレ　フラスタジオ	松鶴家ぽん	三光小学校児童合唱団	CHECK DoLL
ちょこっとダンディ	オトザイ　サトコ	なおやマン	いとしのエリーズ

（4）ブース出店（敬称略/順不同）

女川町 蒲鉾本舗髙政　印刷産業青年連絡協議会（えほんとてがみプロジェクト）
マルキチ阿部商店　神奈川311ネットワーク
株式会社海の民　一葉社（女川 佐々木写真館－2011年3月11日、その日から）

（5）協 賛（敬称略/順不同）

モランボン株式会社　キッコーマン食品株式会社　株式会社カワチヤ・プリント　株式会社蓑輪製本工所

（6）協 力（敬称略/順不同）

女川町観光協会	女川町水産加工研究会	女川町マザーズ
女川町復興サポートREALeYE	女川さいがいFM	女川アートギルドカンパニー
高輪地区総合支所	高輪区民センター	港区立三光小学校
近藤　真治	いとしのエリーズ	

（7）制作協力（敬称略/順不同）

マレーグマ（フライヤーデザイン）　インデックスエレメンツ（ポスター・プログラムデザイン）

（8）新聞折込協力

NSN（NEWS SERVICE NIKKEI）　ASA（朝日新聞サービスアンカー）

（9）共 催

東北被災地応援団　白金支部　　尚礼会町会

皆様からの、あたたかいご支援・ご協力のうえで、成り立っております。

本当にありがとうございました。

私達は、被災地への支援活動を、継続していきます。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

平成25年6月6日
東北被災地応援団　白金支部
工藤 史大

★東北被災地応援団　白金支部　WEBサイト★

http://www.onagawa.e-ouen.jp

※このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2012 Tohokuhisaichi-Ouendan All Rights Reserved.